

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04698

研究課題名(和文)音楽科における〔共通事項〕の学習内容の段階を明示したモデルカリキュラム開発

研究課題名(英文) Development of a model curriculum that outlines the stage of learning content of 'common items' in the subject of music

研究代表者

山中 文 (Yamahana, Aya)

椋山女学園大学・教育学部・教授

研究者番号：10210494

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、平成20年改訂学習指導要領音楽科に新設された〔共通事項〕に示された音楽の諸要素の学習の段階を明示したモデルカリキュラムの開発に取り組んだ。〔共通事項〕は、平成29年改訂学習指導要領に引き継がれたため、同要領の「資質・能力」の観点と〔共通事項〕の課題を明らかにし、幼児期についてはモデルカリキュラムを開発し、研究協力園で実施した。就学以降においては、平成29年改訂学習指導要領で打ち出された資質・能力の観点から再調整し、モデルカリキュラムを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

〔共通事項〕は、平成20年改訂学習指導要領に新設され、平成29年改訂学習指導要領に引き継がれているものの、いまだに、その中で取り上げられている「音楽を形づくっている要素」の学習の段階は一般的になっていない。そのような音楽の諸要素に基づくモデルカリキュラムを構築することは、現代的な要請であると言える。指導において「音楽を形づくっている要素」におけるような音楽の諸要素の段階的な概念把握についての共通認識を確立するとともに、子どもたちの生涯にわたる音楽的概念形成とそれらを活用した音楽的見方の確立に寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In the 2008 revision of the Guidelines for the Course of Study in Japan, a new section, 'Common Items' was added for teaching music in primary schools and secondary schools. This research aims to develop a model curriculum the clearly outlines the learning stages of the musical elements listed under 'Common Items'. The results of this research can be summarized into the following three points. (1) This research revealed issues in the 'Common Items'. (2) A model curriculum for teaching music in early childhood was developed and implemented in a kindergarten setting with the cooperation of. (3) The model curriculum was adjusted and developed following the release of the 2017 revisions to the Guidelines for the Course of Study in Japan, which offered a new understanding of the term 'competency' that was relevant to this study.

研究分野：音楽科教育

キーワード：〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素 音楽の諸要素 学習指導要領 教育内容 資質・能力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)〔共通事項〕の新設

平成 20 年改訂学習指導要領音楽科には〔共通事項〕が新設された。〔共通事項〕は英文表記として 'Common Items for each activity'¹ と示されているように、表現と鑑賞の活動において必要とされるものとして提案されている。そして、その指導する内容として「音楽を形づくっている要素」が示され、「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」が含まれている。

我が国では、1980 年に、千成俊夫によって教育内容として音楽の諸要素が提言され、それ以降、教育内容の概念や教育内容設定の是非についての論争を経て、それらの諸要素の学習の必要性が認められていくようになった。今回の〔共通事項〕の新設や「音楽を形づくっている要素」の提示は、そのような発祥から至ったものと考えられる。

しかし、学習指導要領における〔共通事項〕の新設から 5 年以上が経過して、教育現場では、〔共通事項〕に示されている「音楽を形づくっている要素」は、学習する指標としては意識されるようになってきているが、教育内容としての位置付けやどのように学習していくかという段階性については明らかになっていない。

(2) 音楽の諸要素の概念獲得を目指した授業構成研究

音楽の諸要素を教育内容とする授業構成研究は、千成の提言以降、八木正一や吉田孝らによって引き継がれてきた。これまでに、音楽の諸要素を教育内容とするいくつかの授業プランも開発され、実践されてきている。

しかし、それらのプランは千成の提言による音楽の諸要素全てについて完成しているわけではなく、またプラン相互の順序性も明らかではない²。加えて、近年の小中学校教育現場の授業傾向としては、楽曲教材中心の授業構成が主流になってきている様子が窺える²。

(3) 音楽科における学力・カリキュラム研究

これまでの音楽科の教育内容研究の精査から、音楽科の学力を形成する教育内容のミニマムスタンダードとして音楽の諸要素が整理され、その構造図が明らかになっている³。また、音楽鑑賞能力の構造化⁴や、幼小接続期教育における音楽科の資質能力研究については着手されている状況である⁵。それにより、音楽科の学力の根底に音楽的感覚と聴取力と音楽的語彙が位置づくこと等が明らかになっているとともに、幼小接続期においては、汎用的資質・能力と教科の本質の基盤となる資質・能力の双方を視野にいたしたカリキュラム開発が重要であることが明らかになってきている。

2. 研究の目的

〔共通事項〕は、平成 29 年改訂学習指導要領にも表現と鑑賞の活動において必要とされるものとして引き継がれたが、いまだにその中で示されている「音楽を形づくっている要素」の学習の段階は明らかではない。〔共通事項〕の内容が、生涯にわたって音楽に向き合っていくことができる表現や鑑賞の能力を育成するものとして学習されるために、〔共通事項〕における「音楽を形づくっている要素」に掲げられているような音楽の諸要素の範囲と階層を踏まえ、学習の段階を明示したモデルカリキュラム開発を行う。

3. 研究の方法

(1) 音楽授業研究調査および保育活動における音楽調査

先行して行なった1980年から2014年にいたる教育雑誌における音楽の指導事例調査を再検討し、それを踏まえて、小中学校における教育研究大会等の授業事例を調査した。教育雑誌においては、1980年当時、音楽の諸要素を題材とした題材構成の授業が見られたものの、近年になって教材中心の授業が増えていることがわかっている。そこで、全国152校の国立大学附属小中学校における教育研究大会等について、webによる各校の研究大会告知から最近の授業傾向を調査した。また、2校の訪問調査を行なった。

また、保育活動における音楽調査として、愛知県内において、保育現場で歌われている童謡・唱歌を調査し、保育活動における機能について検討した。

(2)〔共通事項〕の内容や〔共通事項〕にいたる音楽科の教育内容論の再検討

平成29年改訂の新学習指導要領では育成すべき「資質・能力」が示されるようになり、その観点から〔共通事項〕を見直すことが必要になった。そのため、新学習指導要領における〔共通事項〕の課題について、音楽科の教育内容論を再検討し、新学習指導要領の改訂趣旨や「資質・能力」観を文献から精査した。

(3) カリキュラム調査とカリキュラム開発

国内外で訪問調査を行なった小学校や研究協力校圏の音楽カリキュラム、表現カリキュラム調査や授業・保育調査を中心として、カリキュラムを開発し、研究協力校(園)における試行を行い、提案した。

4. 研究成果

(1) 音楽授業研究調査結果および保育活動における音楽調査結果

2016年～2017年にかけての全国の国立大学附属小中学校における教育研究大会等の授業名調査から、「表現を工夫して音楽を味わおう」⁶といった楽曲表現中心の授業が多いこと、「テクスチャを意識して、オリジナルの『ソーラン節』を作ろう」⁷といった授業に見られるように、「音楽を形づくっている要素」を取り上げているものは音楽づくりの指導と関連させていること等が明らかとなった。これらは、1980年から2014年にいたる教育雑誌における音楽の指導事例の傾向²を裏付けるものとなった。

また、保育活動における音楽調査から、現在の保育現場に歌い継がれている唱歌・童謡を明らかにし、その分析から、現在に歌い継がれやすい童謡・唱歌が西洋音楽的な形式感を持つものであること、その使用に教材の固定化の問題があることを明らかにした⁸。

(2)〔共通事項〕の内容や〔共通事項〕にいたる音楽科の教育内容論の再検討結果

〔共通事項〕の内容や〔共通事項〕にいたる音楽科の教育内容論について再検討を行い、まとめた²。

また、平成29年学習指導要領の「資質・能力」は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を三つの柱としている。このうち、〔共通事項〕の学習の課題として、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力など」のいずれにも概念理解の観点が含まれていないことを明らかにした⁹。そして、〔共通事項〕における「音楽を形づくっている要素」の学習について、〔共通事項〕の新設にあたっての説明の混乱(様々な説明の状況、〔共通事項〕の二重構造、〔共通事項〕の説明のゆらぎ)、〔共通事項〕に示された資質・能力における概

念的な知識の排除，題材観の不在（「音楽的なまとまり」による題材観の消失）の3点から課題を指摘した。さらに，音楽科で育てる「資質・能力」については「曲想と音楽の構造などとの関わり」というように個々の楽曲から知覚・感受したイメージと音楽構造との「関わり」が強調されており，そのことは、学習指導要領の改訂にあたって示された「個別的で要素的な者から概念的な理解やより統合された知識へ」¹⁰という「資質・能力」観から見れば異質であることを示した⁹。

（3）カリキュラム調査とカリキュラム開発

研究協力校園や訪問調査校のカリキュラム調査やカリキュラム試行を踏まえ，幼児期において〔共通事項〕の学習段階の観点からその土台となるカリキュラムを提案し，実行にうつすことができた¹¹。そして，幼稚園における1年間を通したカリキュラムについての園内研修から，音楽の諸要素の理解やそれを意識することによる音楽活動の面白さについて教員間に差があり，それが保育に影響を及ぼしていること，音楽の諸要素を意識することによって教材の視点に幅が生まれることが確認された。また，幼小接続期カリキュラムについて提案した⁵。

就学以上のカリキュラムについては，先に述べたような新たに改訂された平成29年学習指導要領に見られる「資質・能力」と〔共通事項〕との関連を整理し，調整を行なった。そして，音楽カリキュラムにおける音楽が他教科と深く関わる領域の学習について言及した¹²。これらをもとに，〔共通事項〕の学習段階を明示したモデルカリキュラムを発表する次年度発表する予定である。

引用参考文献

1. 文部科学省，小学校学習指導要領英訳版（仮訳）
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/04/21/1261037_7.pdf
2. 山中文，音楽科における教育内容論の成立と展開に関する研究－授業構成の方法との関連を視野に入れて－，風間書房，2017
3. 研究代表：山中文，音楽科の学力のミニマムスタンダードに関する実証的研究，基盤研究(C)，研究課題/領域番号 25381205
4. 研究代表：三村真弓，聴取力と批評力を基盤とした音楽鑑賞能力の育成プログラム開発のための基礎的研究，基盤研究(B)，研究課題/領域番号 24330247
5. 研究代表：三村真弓，教科の基盤となる資質能力を育成するための幼小接続期教育に関する研究，挑戦的萌芽研究，研究課題/領域番号 15K13231，2015-2018
6. 中学校1年生音楽授業，宇都宮大学附属中学校公開研究会，2016.11.03
7. 小学校4年生音楽授業，京都教育大学附属桃山小学校教育研究発表会，2017.02.03
8. 太田央子・山中文・渡邊康，保育活動における童謡・唱歌の機能，椋山女学園大学教育学部紀要 11，97-115，2018
9. 山中文，学習指導要領にみる〔共通事項〕の課題－小学校音楽科を中心に，椋山女学園大学研究論集社会科学編 50，51-65，2019
10. 奈須正裕，資質・能力と学びのメカニズム，東洋館出版社，36，2018
11. 山中文・飯田恵・三田郁穂・今井直子・伊藤環・太田央子，幼児期の音楽表現カリキュラムの研究その1－椋山女学園大学附属幼稚園の「表現」の年間指導計画の検討にあたって－，椋山女学園大学教育学部紀要 12，113-126，2019
12. 山中文・渡邊康，教科の枠を超えた事象における音楽活動の音楽学習への機能－音楽科の〔共通事項〕の学習内容を中心としたカリキュラム構想から－，椋山女学園大学教育学部紀要 13，117-131，2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山中文	4. 巻 13
2. 論文標題 教科の枠を超えた事象における音楽活動の音楽学習への機能 - 音楽科の〔共通事項〕の学習内容を中心としたカリキュラム構想から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 椋山女学園大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 117-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山中文	4. 巻 50
2. 論文標題 学習指導要領にみる〔共通事項〕の課題 小学校音楽科を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 椋山女学園大学研究論集 社会科学篇	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山中文、飯田恵、三田郁穂、今井直子、伊藤環、太田央子	4. 巻 12
2. 論文標題 幼児期の音楽表現カリキュラムの研究その1 椋山女学園大学附属幼稚園の「表現」の年間指導計画の検討にあたって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 椋山女学園大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 113-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三村 真弓 , 吉富 功修 , 岡田 知也 , 長澤 希 , 梅比良 麻子 , 松下 友紀	4. 巻 31
2. 論文標題 汎用的な資質・能力と音楽科固有の資質・能力との関連性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音楽文化教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田央子、山中文、渡邊康	4. 巻 11
2. 論文標題 保育活動における童謡・唱歌の機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 椋山女学園大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 97-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三村真弓	4. 巻 7
2. 論文標題 子どもと音楽	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 子ども研究(大阪樟蔭女子大学附属子ども研究所)	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 2件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 山中文
2. 発表標題 音楽科のアイデンティティを検証する - 音楽科で育てる「資質・能力」とは何か -
3. 学会等名 音楽学習学会(全体会コメンテーター)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中文
2. 発表標題 学習指導要領にみる〔共通事項〕の課題
3. 学会等名 音楽学習学会第14回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山中文
2. 発表標題 保育者の養成過程において”表現系“教科目で何を教授するのか
3. 学会等名 第3回保育Labシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山中文
2. 発表標題 新学習指導要領について考える
3. 学会等名 音楽学習学会第13回研究発表大会(鼎談)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mimura Mayumi, Ito Shin, Kitano Sachiko, Yoshitomi Katsunobu, Yamanaka Aya
2. 発表標題 The Kindergarten to Elementary School Transition Curriculum of Hiroshima Univ. Laboratory Schools: Focusing on building generic capacities and attitudes
3. 学会等名 Pacific Early Childhood Education Research Association 16th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 八木正一監修, 竹内貞一編集	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大学図書出版	5. 総ページ数 184
3. 書名 保育者養成のための音楽表現 - 模擬実践をとおして学ぶ -	

1. 著者名 山中文	4. 発行年 2017年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 265
3. 書名 音楽科における教育内容論の成立と展開に関する研究 ―授業構成の方法との関連を視野に入れて―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>学習指導要領にみる〔共通事項〕の課題 小学校音楽科を中心に https://lib.sugiyama-u.repo.nii.ac.jp 幼児期の音楽表現カリキュラムの研究 その1 https://lib.sugiyama-u.repo.nii.ac.jp 広島大学学術情報リポジトリ http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三村 真弓 (MIMURA Mayumi) (00372764)	広島大学・教育学研究科・教授 (15401)	